

# 真狩村公共施設個別計画（概要版） [令和2年度版]

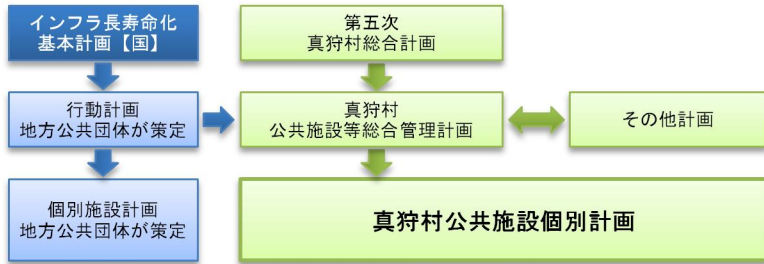
## 1.はじめに

### ◆計画の目的

「真狩村公共施設個別計画」（以下「本計画」）は、今後老朽化が進行する村有施設の長寿命化対策を効率的かつ効果的に進め、財政負担の軽減・平準化を目的とし、村有施設ごとの具体的な対応方針を定める計画として令和2年度に策定しました。

### ◆計画の位置付け

本計画は平成28年度に策定した「真狩村公共施設等総合管理計画」を上位計画とし、本計画は、インフラを除く公共施設の具体的な整備計画の基本方針を示すものです。



## 2.策定方針・項目

### ◆策定方針

- 「真狩村公共施設等総合管理計画」等と整合した計画
  - ◆当該計画の理念・目的・内容との整合
- 村の実態に即した計画づくり
  - ◆整備計画作成対象施設（以下、「対象施設」）の現況や工事実績を反映
- 簡潔で分かりやすい計画づくり
  - ◆長期にわたる個別計画の更新性の確保
- 継続的な見直しを前提とした計画づくり
  - ◆対象施設を取り巻く環境変化への対応

### ◆策定項目

- ・ 計画期間
- ・ 対象施設
- ・ 対象施設の整備方針
- ・ 施設整備の優先順位の考え方
- ・ 対象施設の現況把握
- ・ 整備計画費用

## 3.計画期間

### ◆策定期間

本計画は、平成30年度から令和2年度の3カ年にて実施した整備方針の検討・整理、施設の状態把握等をもとに計画を策定しました。

### ◆計画期間

公共施設の長寿命化をふまえ、整備の計画時期と概算額を把握するほか、村有施設総量の適正化を図る観点から、令和4年度を計画開始年度とし、以降30年間とします。

また、本計画は、令和10年度に見直しを予定しております。

計画期間	
	年度
計画開始年度	令和4（2022）
計画期間	30年 令和4（2022）～令和33（2051）

## 4.対象施設

### ◆本計画の対象範囲

村が保有する公共施設やインフラにおいて、既存の計画との棲み分けを行い、下表赤枠内を対象範囲として整理しました。

対象範囲と既存計画

施設種別（大分類）	個別計画	
集会施設	本計画の対象範囲	
スポーツ・レクリエーション施設		
産業施設		
学校教育施設		
福祉・医療施設		
行政施設		
公園施設		
供給処理施設		
公営・村有住宅		公営住宅長寿命化計画
下水道施設		ストックマネジメント計画
水道施設	簡易水道施設整備事業（独立事業会計）	
橋梁	橋梁長寿命化修繕計画	
道路	村道舗装個別施設計画	

### ◆整備計画作成対象施設の選定（アクションプラン）

村財政への影響度合いおよび、整備計画立案・更新の効率性等を勘案し、対象施設を70施設とし、整備計画（アクションプラン）を作成しました。

対象施設の選定基準

対象施設数	建物規模	摘要
70施設	延床面積50㎡以上	単独で存在する延床面積50㎡未満の小規模施設（公衆便所、詰所等）を除く公共施設

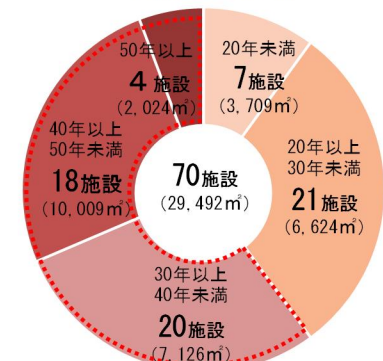
対象施設の内訳

施設種別（大分類）	施設数	対象施設
学校教育施設	38棟	真狩小学校校舎・体育館等
スポーツ・レクリエーション施設	9棟	交流プラザ、まっかり温泉等
集会施設	7棟	公民館、克雪管理センター等
福祉・医療施設	5棟	保健福祉センター等
産業施設	4棟	土壌改良資材製造施設製造棟等
供給処理施設	3棟	除雪センター等
行政施設	2棟	真狩村役場庁舎等
公園施設	2棟	森林学習展示館等
合計	70棟	

### ◆整備計画作成対象施設の築年数

築30年以上の施設が42施設と全体の約6割を占めており、それらの多くで大規模改修が未実施の状況です。中でも築40年以上のものが22施設（内、築50年以上のものは4施設）あり、整備計画の作成においては財政負担の軽減・平準化に資する施設整備の優先順位付けが重要となります。

対象施設の築年数分内訳



# 真狩村公共施設個別計画（概要版） [令和2年度版]

## 5. 対象施設の整備方針

### ◆施設の目標使用年数の設定

整備計画の作成にあたり、施設類型および構造別に目標使用年数を設定しました。

用途別構造別の目標使用年数

施設類型	RC・SRC造	鉄骨造	軽量鉄骨造	ブロック・レンガ造	木造
学校・庁舎	60年	60年	40年	60年	60年
その他					40年

RC (Reinforced Concrete) : 鉄筋コンクリート、SRC (Steel Reinforced Concrete) : 鉄骨鉄筋コンクリート

### ◆整備計画項目の整理

村有施設の特性を考慮し、計画的に整備すべき対象（以下、「整備計画項目」）を下表のとおり設定し、計画的整備に向けた方針を策定しました。

整備計画項目の内訳

分類	建物本体	電気設備	機械設備	衛生設備	その他
項目	屋上	受変電設備	ボイラー設備	灯油タンク	温泉用ポンプ設備
	外壁		石油暖房設備	地下タンク	その他空調
					スロープ（バリアフリー） プールろ過装置

## 6. 施設整備の優先順位の考え方

### ◆対象施設における施設重要度の設定

施設が果たす役割等から、施設の重要度を定量的に評価する指標として施設重要度を設定し、対象施設を4ランク（A～D）に分類しました。

### ◆対象施設の状態把握による劣化度の設定

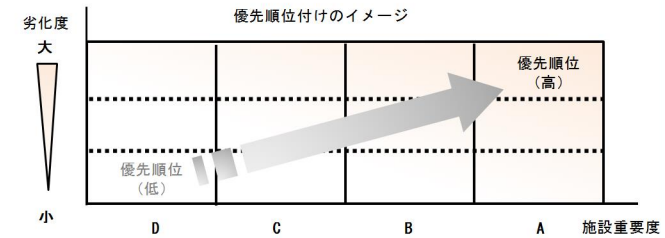
令和元年度から2年度にかけて施設点検を実施し、各整備計画項目の状態把握を行いました。点検にて把握した劣化具合を定量的に評価する指標として劣化度を設定し、対象施設における各整備計画項目の状態を5ランク（V～I）に分類しました。

### ◆施設整備の優先順位の考え方

施設重要度および劣化度の評価をもとに、整備の優先順位付けを行いました。なお、現時点にて優先順位が低い整備計画項目は、整備を抑制もしくは整備時期を後年度へ見送る対象と位置付け、費用の低減及び平準化を図ります。

施設重要度	対象施設数	施設重要度の評価基準
A	13 施設	重要施設と位置づけ、計画的な整備を推進
B	42 施設	利用状況を考慮し、整備を実施
C	6 施設	整備検討時、施設の統廃合や複合化、売却等を検討
D	9 施設	原則、投資抑制（施設統廃合や複合化、売却等）

劣化度	対象整備数	劣化度の評価基準
V	70	優先的な整備を推奨
IV	18	数年以内での整備を推奨
III	109	経過観察（必要により部分的な修繕）
II	4	ほぼ健全な状態
I	38	健全な状態



## 7. 整備計画と今後の運用

### ◆計画期間30年間の整備計画と整備計画費用の平準化

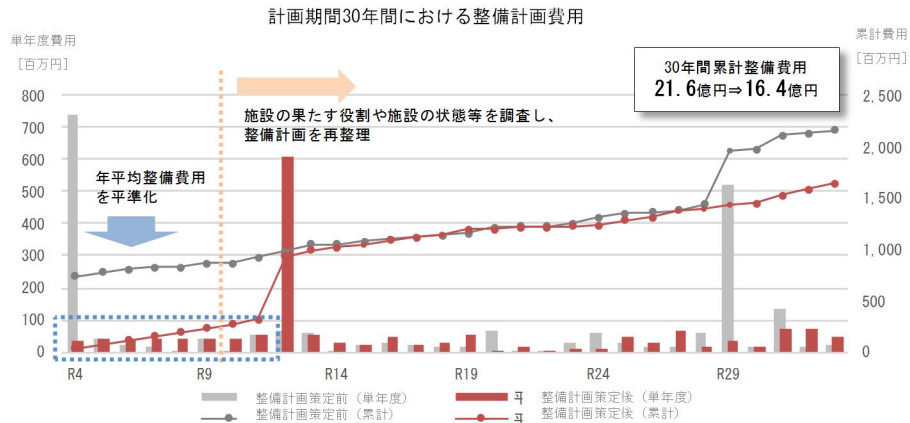
対象施設における全ての整備を実施した場合、30年間での累計整備費用見込は21.6億円となります。（年平均の整備費用：72.0百万円）なお、計画初年度ならびに令和29年に整備が集中し、年平均の整備費用を大きく超過します。

整備の優先順位付けを基に、令和11年度までの整備計画について整備計画費用の平準化（年平均整備費用：40.0百万円）により、計画期間内での2回目の更改の抑制が図られ、今後30年間の累計整備費用として、約5.2億円削減効果が見込まれます。また、施設の統廃合や複合化、売却等も検討し、更なる削減を目指します。

### ◆整備計画の見直しと今後の運用

また、令和10年度の見直し後については、将来の施設を取り巻く環境の変化に対応するため、定期的に施設の果たす役割や施設の状態等を調査し、整備計画を再整理する方針とします。

加えて、上位計画の変更や工事実績の反映等により本計画の不断の見直しと充実を図り、将来に亘り本計画の更新を継続します。



	年平均の整備費用(令和11年度まで)	30年間の累計整備費用
整備計画策定前	72.0百万円	21.6億円
整備計画策定後	40.0百万円	16.4億円
差額	32.0百万円	5.2億円

真狩村公共施設個別計画  
（概要版） [令和2年度版]  
令和3年3月  
（令和6年12月改訂）

真狩村役場 総務課 財政係  
〒048-1631  
北海道虻田郡真狩村字真狩118番地  
電話：0136-45-3610  
FAX：0136-45-3162